

年金払定期付積立型変額保険

LIFE PRODUCE
(06)

ライフ プロデュース (06)

【引受保険会社】



アクサ生命保険株式会社

〒108-8020 東京都港区白金1 17 3

月次運用レポート

2010年1月

【利用する投資信託の委託会社】

アライアンス・バーンスタイン株式会社


ALLIANCEBERNSTEIN

アライアンス・バーンスタイン株式会社は、米国ニューヨークに本社を置くアライアンス・バーンスタイン・エル・ビーを中核とするアライアンス・バーンスタイン*の日本拠点です。アライアンス・バーンスタイン・エル・ビーは1971年の設立以来、資産運用会社として長年にわたる歴史を有し、世界各国の主要都市に業務展開を行い、個人投資家や富裕層、機関投資家向けに投資信託や年金運用等の投資サービスを提供しています。業界最大級のグローバルな調査体制を擁する世界有数の運用会社として、グロース株式、バリュー株式、債券、ブレンド戦略など、幅広い資産運用サービスや商品を提供しています。

*アライアンス・バーンスタインには、アライアンス・バーンスタイン・エル・ビーとその傘下の関連会社を含みます。

- ・アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」は、特別勘定で運用を行う保険商品です。特別勘定の主たる運用手段として投資信託を用いますが、投資信託ではありません。
 - ・当資料は、アクサ生命保険株式会社の「年金払定期付積立型変額保険」の運用状況等を開示するためのものであり、生命保険の募集を目的としたものではありません。
 - ・当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき作成した部分を含んでおりますが、その部分の正確性・完全性については、これを保証するものではありません。
 - ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
 - ・商品内容の詳細については「契約締結前交付書面(契約概要/注意喚起情報)(*)」、「リファレンスブック」、「ご契約のしおり・約款」、「特別勘定のしおり」を合わせてご覧ください。
 - ・当資料に記載されている各表にある金額、比率、資産構成等はそれぞれの項目を四捨五入等していますので、合計等と合致しないことがあります。
- * 金融商品取引法の2007年9月30日完全施行により配布を開始しております。

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 当ページは、各種の信頼できると考えられる情報源から取得した情報に基づき、アクサ生命保険株式会社が作成し提供するものです。情報の内容に関しては万全を期しておりますが、その正確性・完全性については、これを保証するものではありません。

運用環境 [2010年1月]

【日本株式市場】

日本株式市場は、下落しました。TOPIX(東証株価指数)は前月末比 0.71%下落の901.12ポイントで終了しました。
 上旬は、世界的な景気回復期待に加えて、欧米株式市場の上昇や円安米ドル高となったことなどを好感して上昇して始まると、企業業績の改善期待などから一段高となりました。その後は、円高傾向となったことや中国の金融引き締めによる景気減速などを警戒し、上値の重い展開となりました。下旬に入ると、オバマ米政権が発表した米金融規制法案を嫌気して大幅に下落しました。業種別(東証33業種)では、中国などの需要拡大期待から「海運業」(前月末比+13.87%)が最も上昇した一方、日本航空が上場廃止となった「空運業」(同 16.88%)が最も下落しました。

【外国株式市場】

外国株式市場は、軟調に推移しました。
 米国株式市場は下落し、NYダウは前月末比 3.46%下落の10,067.33ポイントで終了しました。上旬は、世界的な景気回復期待を背景に緩やかながらも堅調に推移しました。その後は、米大手銀行の決算内容が不調だったことや、オバマ米政権が発表した新金融規制法案が金融機関の利益を圧迫するとの懸念などから、大幅に下落しました。
 欧州株式市場は、上旬は、まちまちの経済指標を背景にほぼ横ばいの展開となりましたが、中旬以降、中国の金融引き締めや米金融規制法案に加えて、ギリシャの財政健全性をめぐる懸念などから、主要国の株式指数は下落し、市場別騰落率は、英FT100は前月末比 4.14%下落、仏CAC40は同 5.00%下落、独DAXは同 5.85%下落となりました。

【日本債券市場】

日本債券市場は、揉み合いの動きが続きました。新発10年国債利回りは1.315%となりました(前月末は1.285%)。
 上旬は、株価の上昇や円安などを受けて1.3%台半ばに上昇しました。その後は、米格付会社による日本国債格付見通しの引き下げなどの売り材料と、良好な債券需給という買い材料がせめぎ合い、1.3%台前半から半ばの狭いレンジで揉み合いました。下旬は、円高や米金融規制法案を嫌気した海外株式市場の下落などを受けて国内株式市場が大幅安になると、債券が選好される展開となり、1.3%台前半まで低下しました。
 日銀は、政策金利を据え置き、年0.1%を維持しました。
 無担保コール(翌日物)は0.1%程度の水準で推移しました。

【外国債券市場】

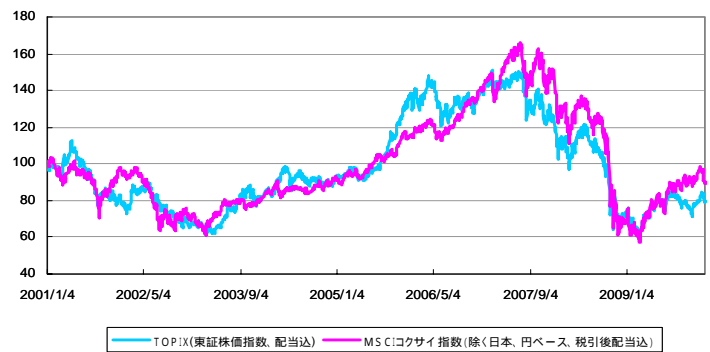
米国債券市場は、上旬は、事前予想を下回る12月米雇用統計など軟調な経済指標の発表を受けて、堅調に推移しました。中旬以降、低金利政策の長期化見通しや新金融規制法案を嫌気した株価の下落を受けて一段と債券が選好される展開となり、米10年国債利回りは、月末には3.584%となりました(前月末は3.837%)。
 欧州債券市場は、株価の下落などを受けて債券が選好される展開となりました。ギリシャなどの財政悪化に対する懸念が、相対的に安全と見られる独国債の買い材料となり、独10年国債利回りは、月末には3.196%となりました(前月末は3.387%)。
 FRB(米連邦準備制度理事会)は、FF(フェデラル・ファンド)金利の誘導目標を据え置き、年0.0~0.25%を維持しました。ECB(欧州中央銀行)は政策金利を据え置き、年1.0%を維持しました。

【外国為替市場】

米ドル/円相場は、中旬以降、米低金利政策の長期化見通しや米金融規制法案を嫌気して米株式市場が下落したことなどから、円が買われる展開となりました。円は対ドルで前月末比2円33銭(+2.53%)円高ドル安の1ドル=89円77銭となりました。
 ユーロ/円相場は、中旬以降、ギリシャなどの財政懸念や株価の下落を受けて、リスク回避の動きから、大幅に円高がすすみました。円は対ユーロで前月末比7円01銭(+5.31%)円高ユーロ安の1ユーロ=124円99銭となりました。

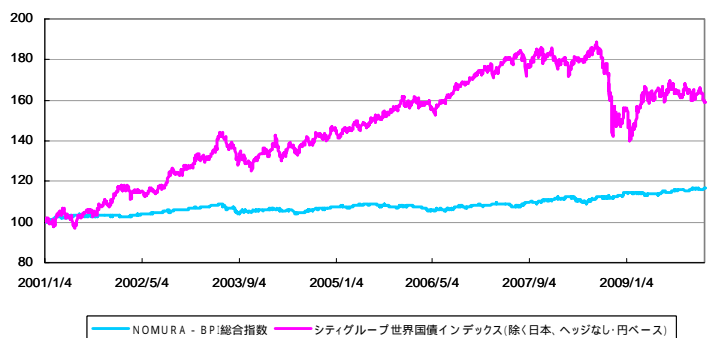
日本と外国の株式市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。

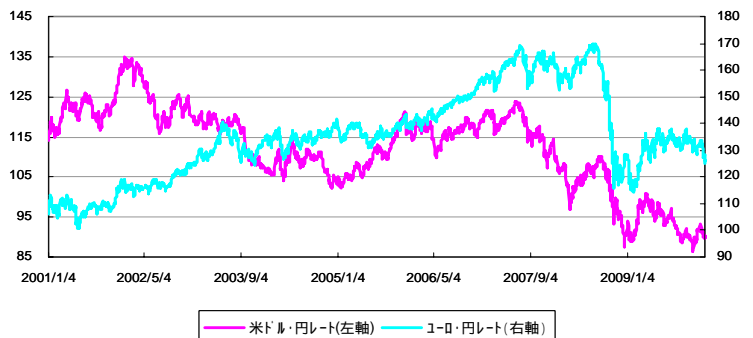


日本と外国の債券市場の推移

*下記グラフは2001年1月4日を100として指数化しています。



外国為替市場の推移



出所: 株式会社三菱東京UFJ銀行の対顧客電信相場仲値

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- ・当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- ・特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の種類と運用方針について

特別勘定名	基本資産 配分比率	利 用 す る 投 資 信 託		
		投資信託名	運用方針	委託会社
ライフ プロデュース30	世界 株式 30%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (保守型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	アライアンス・ バーンスタイン 株式会社
	世界 債券 70%			
ライフ プロデュース50	世界 株式 50%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (中立型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の50%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
	世界 債券 50%			
ライフ プロデュース70	世界 株式 70%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・バランス (積極型)	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の70%程度を基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
	世界 債券 30%			
ライフ プロデュース日本株式	日本 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ ジャパン・スタイル・ブレンド・ ファンド - 1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。バリュース株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス ¹⁾ を行います。	
ライフ プロデュース世界株式	世界 株式 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・グロース・ オポチュニティーズ - 3	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	
ライフ プロデュース世界債券	世界 債券 100%	適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ グローバル・ボンド・ ファンド - 1	マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国の投資適格債(BBB格以上)を投資対象に分散投資と投資対象証券の相対的投資価値分析を基本として、信託財産の成長を図ることを目的に運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。	

特別勘定の種類、運用方針および委託会社等の運用協力会社は、将来変更されることがあります。
特別勘定には、各種支払等に備え、一定の現金、預金等を保有することがあります。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]
アクサ生命保険株式会社
お問合せ先: カスタマーサービスセンター
Tel 0120-936-133
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

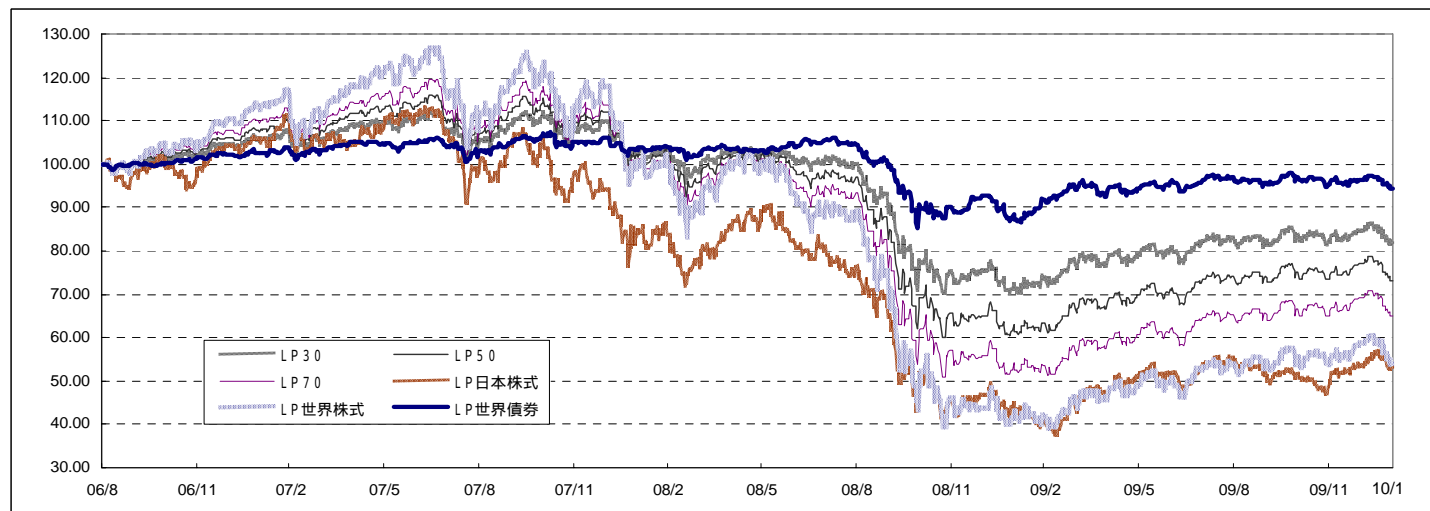
年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。

特別勘定の運用状況 [2010年1月 末日現在]

特別勘定のユニットプライスの推移

特別勘定のユニットプライスは、特別勘定で利用している投資信託の基準価額とは異なります。



ライフプロデュース30			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2010年1月末	81.51	過去1ヵ月	3.71
2009年12月末	84.65	過去3ヵ月	2.60
2009年11月末	81.97	過去6ヵ月	0.84
2009年10月末	83.69	過去1年	14.78
2009年9月末	82.37	過去3年	23.03
2009年8月末	82.11	設定来	18.48

ライフプロデュース50			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2010年1月末	73.25	過去1ヵ月	4.91
2009年12月末	77.04	過去3ヵ月	2.55
2009年11月末	73.49	過去6ヵ月	0.19
2009年10月末	75.17	過去1年	19.32
2009年9月末	73.95	過去3年	32.15
2009年8月末	73.35	設定来	26.74

ライフプロデュース70			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2010年1月末	65.04	過去1ヵ月	6.13
2009年12月末	69.29	過去3ヵ月	2.52
2009年11月末	65.12	過去6ヵ月	0.47
2009年10月末	66.72	過去1年	23.74
2009年9月末	65.57	過去3年	40.87
2009年8月末	64.74	設定来	34.95

ライフプロデュース日本株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2010年1月末	52.71	過去1ヵ月	1.32
2009年12月末	53.42	過去3ヵ月	2.39
2009年11月末	48.70	過去6ヵ月	2.02
2009年10月末	51.48	過去1年	21.49
2009年9月末	51.88	過去3年	49.88
2009年8月末	54.76	設定来	47.28

ライフプロデュース世界株式			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2010年1月末	53.98	過去1ヵ月	7.94
2009年12月末	58.63	過去3ヵ月	2.53
2009年11月末	53.93	過去6ヵ月	1.20
2009年10月末	55.38	過去1年	30.00
2009年9月末	54.40	過去3年	52.36
2009年8月末	53.36	設定来	46.01

ライフプロデュース世界債券			
ユニットプライス	騰落率 (%)		
2010年1月末	94.51	過去1ヵ月	1.87
2009年12月末	96.31	過去3ヵ月	2.67
2009年11月末	95.38	過去6ヵ月	1.75
2009年10月末	97.10	過去1年	8.46
2009年9月末	95.66	過去3年	7.97
2009年8月末	96.08	設定来	5.48

特別勘定のユニットプライスは、2006年8月30日のプライスを100.00として計算しています。

騰落率は、該当月の月末のユニットプライスに対する当月末のユニットプライスの変動率を表しています。

各特別勘定のユニットプライスは、弊社ホームページにて各営業日にご確認いただくことができます。

特別勘定資産の内訳

項目	ライフプロデュース30		ライフプロデュース50		ライフプロデュース70	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	1,369	0.6	3,268	0.2	4,120	0.5
その他有価証券	239,942	99.4	1,620,832	99.8	880,218	99.5
合計	241,312	100.0	1,624,100	100.0	884,339	100.0

項目	ライフプロデュース日本株式		ライフプロデュース世界株式		ライフプロデュース世界債券	
	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)	金額(千円)	比率(%)
現預金・コールローン	1,538	0.4	5,575	0.5	1,519	0.3
その他有価証券	413,535	99.6	1,135,488	99.5	560,983	99.7
合計	415,073	100.0	1,141,063	100.0	562,503	100.0

各特別勘定で利用している国内投資信託は、いずれも「その他有価証券」の項目に含まれています。

金額の単位未満は切捨てとしました。また、比率については小数点第二位を四捨五入しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

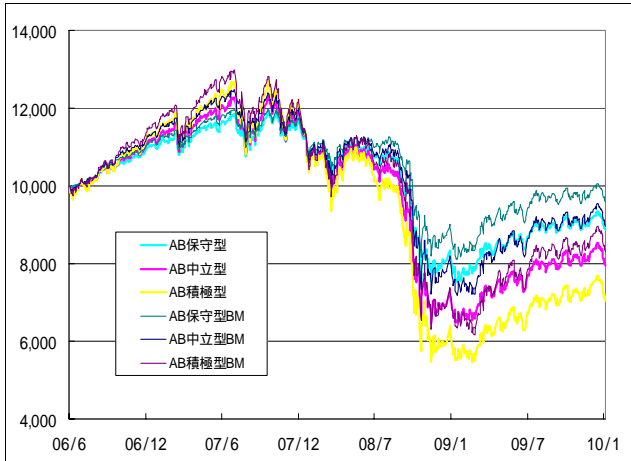
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知ください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース30・50・70 [2010年1月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

利用する投資信託について

【投資信託名】 LP30 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(保守型)
LP50 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(中立的型)
LP70 適格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス(積極型)

【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社

【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として日本を含む世界各国の株式および投資適格債(BBB格以上)に分散投資し、信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。株式の実質組み入れ比率は純資産の30%・50%・70%程度を基本とし、一定の規律に従い「バランズ」を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

当投資信託は、主として、アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券、アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券に投資します。

- * LP: 特別勘定 ライフプロデュース
- * AB: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・バランス

当投資信託の騰落率

	過去1ヵ月	過去3ヵ月	過去6ヵ月	過去1年	過去3年	設定来
AB保守型	3.64%	2.38%	0.37%	16.20%	20.57%	11.36%
BM	3.52%	2.34%	0.69%	15.20%	15.06%	4.17%
差	0.12%	0.04%	0.32%	1.01%	5.51%	7.19%
AB中立的型	4.84%	2.31%	0.28%	20.80%	30.11%	20.49%
BM	4.39%	2.05%	0.41%	20.85%	22.38%	10.29%
差	0.44%	0.26%	0.14%	0.05%	7.73%	10.20%
AB積極型	6.07%	2.31%	0.83%	25.09%	39.13%	29.46%
BM	5.27%	1.78%	1.47%	26.50%	29.77%	16.88%
差	0.80%	0.53%	0.64%	1.41%	9.36%	12.58%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。「BM」とは、合成ベンチマークを指します。合成ベンチマークの組合せの比率は以下のとおりです。

	AB保守型	AB中立的型	AB積極型
MSCIワールド・インデックス ² (税引後配当金込/円ベース)	30.00%	50.00%	70.00%
シティグループ世界国債インデックス (円ベース) ³	70.00%	50.00%	30.00%

当投資信託の資産配分比率

	基本資産配分	AB保守型	基本資産配分	AB中立的型	基本資産配分	AB積極型
世界株式Mファンド*	30.00%	28.87%	50.00%	48.35%	70.00%	68.73%
世界債券Mファンド**	70.00%	71.53%	50.00%	52.03%	30.00%	31.69%
短期金融資産等	0.00%	-0.40%	0.00%	-0.39%	0.00%	-0.42%
合計	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%	100.00%

* 世界株式Mファンド: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券

** 世界債券Mファンド: アライアンス・バーンスタイン・グローバル・ボンド・マザーファンド受益証券

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は、AB保守型が前月末比 3.64%、AB中立的型が同 4.84%、AB積極型が同 6.07%となりました。一方、ベンチマークの騰落率は、AB保守型が前月末比 3.52%、AB中立的型が同 4.39%、AB積極型が同 5.27%となりました。

ベンチマークとの比較では、世界債券Mファンドにおける国債のイールドカーブ戦略はプラス要因となったものの、世界株式Mファンドにおける情報・通信テクノロジー・セクターを高めに入れたセクター配分や、金融サービス・セクターにおける銘柄選択などがマイナス要因となりました。資産配分に関しましては、各投資信託ともに基本資産配分を概ね維持しております。

今後も引き続き、世界株式Mファンドおよび世界債券Mファンドへの投資を通じて、実質的に世界の株式と債券へ分散投資を行い、信託財産の長期的な成長を図ります。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

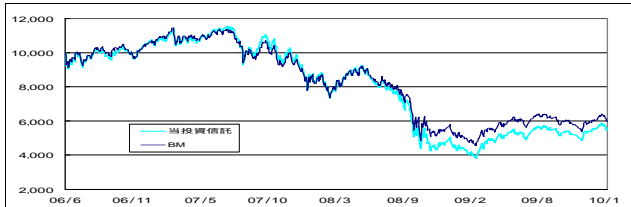
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース日本株式 [2010年1月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	1.21%	2.69%	1.53%	22.95%	49.15%	45.41%
BM	0.71%	0.69%	4.48%	15.62%	44.93%	40.23%
差	0.50%	2.00%	2.95%	7.33%	4.22%	5.18%

当投資信託の詳細情報

資産配分比率

	基本資産配分	投資信託
バリュー株Mファンド*	50.00%	51.22%
グロース株Mファンド**	50.00%	49.43%
短期金融資産等	0.00%	-0.64%
合計	100.00%	100.00%

業種別構成比率

業種	投資信託
1 電気機器	16.15%
2 輸送用機器	11.95%
3 卸売業	8.03%
4 化学	7.53%
5 銀行業	7.03%
6 情報・通信業	5.88%
7 機械	5.34%
8 食料品	4.08%
9 その他の業種	33.15%
10 現金等	0.87%
合計	100.00%

利用する投資信託について

【投資信託名】 通格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・ジャパン・スタイル・ブレンド・ファンド - 1
【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、投資スタイルの分散を図り、主として日本の株式を投資対象に信託財産の長期的な成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。バリュー株(割安株)及びグロース株(成長株)への投資配分は、50%程度ずつを基本とし、一定の規律に従いリバランス¹⁾を行います。

当投資信託は、主として、
バーンスタイン・日本ストラテジック・バリュー株・マザーファンド受益証券、
アライアンス・日本大型成長株・マザーファンド受益証券 に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

¹⁾「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、TOPIX(東証株価指数 配当込)⁴⁾です。

・比率は、投資信託組入全銘柄に対する比率となります。

市場別構成比率

市場	投資信託
東京証券取引所第一部	95.07%
大阪証券取引所第一部	4.06%
現金等	0.87%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	業種	投資信託
1 トヨタ自動車	輸送用機器	4.48%
2 日本電信電話	情報・通信業	3.90%
3 本田技研工業	輸送用機器	3.46%
4 三菱商事	卸売業	3.40%
5 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	3.27%
6 三井物産	卸売業	3.12%
7 三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	3.10%
8 東日本旅客鉄道	陸運業	3.02%
9 キヤノン	電気機器	3.02%
10 東芝	電気機器	2.77%
合計		33.54%
組入銘柄数		87銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比 1.21%となりました。一方、ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数 配当込)の騰落率は、前月末比 0.71%となりました。(以下、バリュー株Mファンドは委託会社独自のセクター別、グロース株MファンドはGICSセクター別で記載。)

ベンチマークとの比較では、バリュー株Mファンドでは、セクター配分はマイナス要因となったものの、銘柄選択はプラスに寄与しました。セクター配分では、素材のオーバーウェイトなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、金融や消費財・シクリカル・セクターなどにおける選択がプラス寄与となりました。グロース株Mファンドは、セクター配分、銘柄選択共にマイナス要因となりました。セクター配分では、公益事業のアンダーウェイトなどがマイナス要因となりました。銘柄選択では、情報技術セクターにおける選択などがマイナス要因となりました。各マザーファンドに対する基本資産配分を概ね維持しました。

引き続き投資スタイルの分散を行い、バリュー株Mファンドについては、企業のファンダメンタルズ分析に基づく個別銘柄選択を付加価値の源泉とした割安銘柄のボトムアップ投資、グロース株Mファンドについては、綿密な個別企業の調査に基づいて、業績および潜在成長力が市場で過小評価されていると考える成長銘柄を中心に投資し、信託財産の長期的な成長を図ることをめざします。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

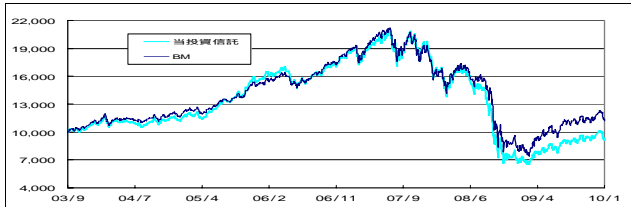
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース世界株式 [2010年1月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2003年9月30日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	7.89%	2.25%	1.66%	31.63%	51.03%	9.02%
BM	6.58%	1.43%	2.96%	34.92%	40.69%	12.00%
差	1.31%	0.82%	1.30%	3.29%	10.35%	21.02%

マザーファンド受益証券の詳細情報 国/地域別構成比率

国名	マザーファンド
1 アメリカ	42.95%
2 イギリス	12.88%
3 日本	5.47%
4 スイス	3.98%
5 中国	3.77%
6 オーストラリア	3.32%
7 ドイツ	2.71%
8 アイルランド	2.50%
9 その他の国/地域	17.28%
10 現金等	5.14%
合計	100.00%

利用する投資信託について

【投資信託名】 通格機関投資家私募 アライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース
・オポチュニティーズ - 3
【委託会社】 アライアンス・バーンスタイン株式会社
【運用方針】

マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界各国(日本を含む)の株式を投資対象に成長の可能性が高いと判断される「セクター」の中から、成長性が高いと思われる銘柄に投資し、信託財産の成長を図ることを目標に積極的な運用を行います。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジは行いません。

当投資信託は、主としてアライアンス・バーンスタイン・グローバル・グロース・オポチュニティーズ・マザーファンド受益証券に投資します。

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2003年9月30日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、MSCIワールド・インデックス²(税引後配当金込/円ベース)です。

比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

セクター別構成比率

セクター	マザーファンド
1 情報技術	17.57%
2 金融	15.01%
3 ヘルスケア	12.35%
4 資本財・サービス	10.84%
5 一般消費財・サービス	10.56%
6 エネルギー	10.54%
7 生活必需品	8.54%
8 素材	6.45%
9 その他のセクター	3.01%
10 現金等	5.14%
合計	100.00%

組入上位10銘柄

銘柄	国名	セクター	業態	マザーファンド
1 BP	イギリス	エネルギー	石油	1.69%
2 JPモルガン・チェース	アメリカ	金融	総合金融	1.60%
3 ゲーグル	アメリカ	情報技術	インターネット	1.53%
4 マイクロソフト	アメリカ	情報技術	コンピューターソフト	1.51%
5 本田技研工業	日本	一般消費財・サービス	自動車	1.48%
6 中国工商銀行	中国	金融	商業銀行	1.47%
7 メルク	アメリカ	ヘルスケア	医薬品	1.43%
8 フランクリン・リソース	アメリカ	金融	投資顧問	1.41%
9 ロシュ・ホールディング	スイス	ヘルスケア	医薬品	1.38%
10 アップル	アメリカ	情報技術	パソコン	1.37%
合計				14.88%
組入銘柄数				140銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月比 7.89%となりました。一方、ベンチマークであるMSCIワールド・インデックス(税引後配当金込/円ベース)の騰落率は前月比 6.58%となりました。(以下、委託会社独自のセクター別で記載。)
ベンチマークとの比較では、セクター配分では、ヘルスケア・セクターを高めに組入れていたことなどがプラスに寄与する一方で、情報・通信テクノロジー・セクターを高めに組入れていたことなどはマイナスにはたきました。銘柄選択では、金融サービス・セクターにおける選択が主なマイナス要因となりました。
今後も、自社アナリストによる徹底した企業分析を通じて、成長が見込まれ、かつ株価水準が妥当な優良銘柄を選別する方針です。セクター別では、金融サービス・セクターでは、各分野で長期的な勝者となると考えられる安定成長の見込まれる銘柄や、改善しつつある株式市場の恩恵を受けられる銘柄を中心に組入れています。エネルギー・天然資源セクターでは、銅や鉄鉱石など需給バランスの取れたコモディティに関連する銘柄に焦点を当てています。情報・通信テクノロジー・セクターでは、ファンダメンタルズが幅広く改善してきているなか、当セクターを高めに組入れています。消費関連セクターでは、今後市場は企業のファンダメンタルズにより着目すると考えており、長期的な安定成長が見込まれる銘柄に焦点を当てています。インフラストラクチャー・セクターでは、機械、商社、自動車を最も高めの組入比率とする一方、公益事業や建設・土木を低めに組入れています。ヘルスケア・セクターでは、安定成長が見込まれファンダメンタルズの強い企業に焦点を当てています。セクター内ではバイオテクノロジーを高めに組入れています。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

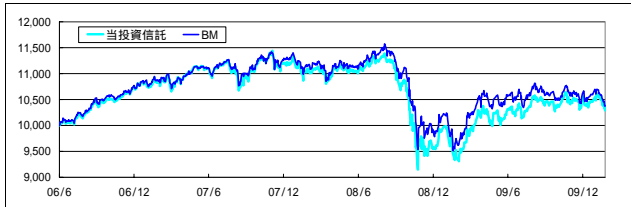
アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険 特別勘定の月次運用レポート (2010年1月)

- 当資料中の運用実績に関するいかなる内容も過去の実績であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また、予告なしに当資料の内容が変更、廃止される場合がありますのであらかじめご承知おきください。
- 特別勘定資産は、投資信託を利用している部分の他に、保険契約の異動等に備える部分を加えたものとなります。後者の部分については、利用する投資信託の委託会社の裁量の範囲外となります。
- 当ページは、利用する投資信託の委託会社による運用報告を、アクサ生命保険株式会社が提供するものであり、内容に関して、アクサ生命保険株式会社は一切責任を負いません。

特別勘定 ライフプロデュース世界債券 [2010年1月 末日現在]

当投資信託の基準価額の推移



投資信託の設定日(2006年6月5日)を10,000として指数化しています。

当投資信託の騰落率

	過去 1ヵ月	過去 3ヵ月	過去 6ヵ月	過去 1年	過去 3年	設定来
投資信託	1.78%	2.45%	1.24%	9.74%	5.13%	2.91%
BM	2.21%	2.83%	2.44%	6.76%	4.57%	3.79%
差	0.43%	0.38%	1.20%	2.97%	0.55%	0.88%

設定来の騰落率は、投資信託の設定日(2006年6月5日)を起点として計算しています。

投資信託の騰落率は、分配金(税引前)を再投資したものと計算しています。

また、投資信託の騰落率と実際の投資家利回りとは異なります。

「BM」とは、ベンチマークを指します。ベンチマークは、シティグループ世界国債インデックス(円ベース)¹⁾です。

・比率は、マザーファンド受益証券における純資産総額比となります。

マザーファンド受益証券の詳細情報 国/地域別構成比率

	国名	マザーファンド
1	ドイツ	26.54%
2	日本	21.23%
3	アメリカ	17.60%
4	イギリス	9.00%
5	フランス	5.10%
6	スウェーデン	3.46%
7	カナダ	1.94%
8	オーストラリア	1.33%
9	その他の国/地域	7.77%
10	現金等	6.03%
合計		100.00%

格付別構成比率

格付	マザーファンド
AAA	56.89%
AA	25.22%
A	6.63%
BBB	5.23%
BB以下	0.00%
現金等	6.03%
合計	100.00%

格付基準:

ムーディーズ社またはスタンダード・アンド・プアーズ(S&P)社のうち、

いずれか高いほうを採用しています。

債券種別資産構成比率

債券種別	マザーファンド
1 国債・政府機関債等	73.80%
2 社債	20.16%
3 現金等	6.03%
合計	100.00%

ポートフォリオの状況

	マザーファンド
平均複利利回り	2.67%
平均クーポン	3.72%
平均残存期間	7.34
実効デュレーション	6.00

「複利利回り」とは、個別の債券等を満期まで保有した場合の複利利回りを加重平均したものです。あくまで、計算日時点の評価にもとづくものであり、売却や償還による差損等を考慮したものではありません。

「実効デュレーション」とは、債券価格の弾力性を示す指標として用いられ、金利の変化に対する債券価格の感応度を示します。

組入上位10銘柄

	銘柄	国名	クーポン	償還日	格付		マザーファンド
					ムーディーズ	S&P	
1	ドイツ国債	ドイツ	3.750%	2017年1月4日	Aaa	AAA	5.03%
2	ドイツ国債	ドイツ	4.250%	2017年7月4日	Aaa	AAA	4.08%
3	日本国債	日本	1.500%	2015年9月20日	Aa2	AA	3.98%
4	ドイツ国債	ドイツ	3.500%	2019年7月4日	Aaa	AAA	3.95%
5	日本国債	日本	1.300%	2014年3月20日	Aa2	AA	3.52%
6	ドイツ国債	ドイツ	4.000%	2016年7月4日	Aaa	AAA	3.50%
7	イギリス国債	イギリス	5.000%	2018年3月7日	Aaa	AAA	3.43%
8	ドイツ国債	ドイツ	3.750%	2019年1月4日	Aaa	AAA	3.14%
9	イギリス国債	イギリス	8.000%	2015年12月7日	Aaa	AAA	3.09%
10	フランス国債	フランス	3.250%	2016年4月25日	Aaa	AAA	2.56%
合計							36.29%
組入銘柄数							146銘柄

上記銘柄は、推奨または取得の申込みの勧誘を行うものではありません。

当投資信託の運用コメントおよび今後の運用方針

投資信託の騰落率は前月末比 1.78%、一方、ベンチマークであるシティグループ世界国債インデックス(円ベース)の騰落率は前月末比 2.21%となりました。ベンチマークとの比較では、マザーファンドでの、ユーロ圏の国債のイールドカーブ戦略などが主なプラス要因となりました。マザーファンドのポートフォリオでは、ドイツ国債や米国国債を買い増したほか、ニュージーランド国債を新規に買い付けました。一方、カナダ国債を一部売却したほか、ギリシャの財政悪化の問題が及ぼす影響が懸念されたことからポーランド国債を一部売却し、ハンガリー国債を全額売却しました。社債については、金融関連銘柄などを買い付けました。世界経済は、製造業が回復を示し始めていることなどから、景気回復ペースは強まると見えています。主要国の国債については、欧州などの投資妙味が高いと判断している一方、財政悪化が予想される英国などについて慎重な見方をしています。投資適格社債については2008年の金融危機の際に大幅に拡大した国債との利回り格差(スプレッド)は足元では大きく縮小したものの、今後期待される景気回復の影響などから、相対的な投資妙味は高いと判断しています。

将来の市場環境の変動等により、今後の運用方針通りに運用できないことがあります。

・表示桁未満の数値がある場合、四捨五入で処理しています。

・3ページおよび5ページ～8ページに記載されている「*1～*4」の用語説明は、9ページに記載しています。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険

用語説明

- *1 「リバランス」とは、当初決定した資産配分比率に調整することをいいます。
- *2 「MSCIワールド・インデックス」とは、MSCI Inc.が世界の先進国株式市場のパフォーマンスを測るために開発した指数で、各国の株式時価総額等をベースに算出されたものです。
MSCIワールド・インデックスに関する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
MSCIワールド・インデックス(税引後配当金込/円ベース)は、MSCIワールド・インデックス(米ドルベース)をもとに、わが国の対顧客電信売買相場の仲値を用いて委託会社が円ベースに換算したものです。
- *3 「シティグループ世界国債インデックス(円ベース)」とは、シティグループ・グローバル・マーケット・インクが算出・公表する指数で、1984年12月末日を100として世界主要国の国債の総合投資収益を各市場の時価総額で加重平均し指数化したものです。
シティグループ世界国債インデックス(円ベース)に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はシティグループ・グローバル・マーケット・インクに帰属します。
- *4 「TOPIX(東証株価指数 配当込)」とは、東京証券取引所第一部に上場されている普通株式全銘柄の浮動株調整後の時価総額を指数化し、配当収益を考慮したインデックスであり、市場全体の動向を反映するものです。TOPIX(東証株価指数)は、株式会社東京証券取引所(以下「東京証券取引所」)の知的財産であり、この指数の算出、数値の公表、利用など株価指数に関するすべての権利は東京証券取引所が有しています。東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止、またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について

【投資リスクについて】

この保険は積立金額、払いもどし金額および満期保険金額などが特別勘定資産の運用実績に応じて変動(増減)するしくみの変額保険です。特別勘定資産の運用は、主として国内外の株式および公社債を主要投資対象とする投資信託を利用して運用され、株式および公社債の価格変動と為替変動などに伴う投資リスクがあります。特別勘定資産の運用実績が積立金額に直接反映されますので、このリスクはご契約者に帰属し、ご契約者が損失を被ることがあります。運用実績によっては、ご契約を解約した場合の払いもどし金額や満期保険金額などが払込保険料総額を下回る場合があります。特別勘定における資産運用の結果がご契約者の期待通りでなかった場合でも、当社または第三者がご契約者に何らかの補償・補填をすることはありません。

【諸費用について】

お客様にご負担いただく費用は、危険保険料、各保険契約管理費、および運用関係費の合計額となります。

<第1回の年金の支払事由発生前にかかる費用>

項目	費用	備考
危険保険料	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に、危険保険料率を乗じた金額	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (保険料比例部分)	保険料(任意一時払保険料を除く)に対し、 3.00%	各保険料を特別勘定に繰り入れる際、当該保険料から控除して積立金に充当します。
保険契約管理費 (定額部分)	毎月 250円(固定費)	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (危険保険金額比例部分)	毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額に対し、 0.01%/月	月単位の契約応当日の前日末に積立金から控除します。
保険契約管理費 (積立金額比例部分)	積立金額に対し、 年率1.00% (1.00%/365日を乗じた金額)	毎日、積立金から控除します。

危険保険料は、危険保険金額が積立金額の変動によって変動すること、また、危険保険料率が被保険者の年齢や性別によって異なることから具体的な数値を記載することができません。危険保険料率について詳しくは、「ご契約のしおり・約款」をご覧ください。

毎月の初日から末日までの日々の危険保険金額を平均した額が1,000万円を超える場合、高額割引が適用され、その月の保険契約管理費(危険保険金額比例部分)がお安くなります。ただし、基本年金年額の減額や積立金額の増加などにより、危険保険金額が1,000万円以下となる場合には、高額割引は適用されなくなります。

【引受保険会社】

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>

年金払定期付積立型変額保険のリスク及び諸費用について

< 積立金の移転や解約などにかかる費用 >

項目	時期	費用	備考
積立金移転費用	積立金の移転時	[書面による移転申込みの場合] 月1回目1,500円、 2回目以降は1回につき2,300円 ^(*)	毎回に移転について積立金から控除します。
		[インターネットによる移転申込みの場合] 月1回の積立金の移転は無料、 2回目からは1回につき800円 ^(*)	1ヵ月に2回以上積立金の移転を行なう場合、 2回目からの移転について積立金から控除します。
解約控除	解約時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)と危険保険金に対する解約控除額(危険保険金に解約控除率0.50%~0.05%を乗じた金額)の合計額	解約日が契約日より起算して10年未満の場合には、 経過年数に応じて計算した金額を、 解約日の翌営業日の積立金額から控除します。
解約控除	積立金の一部引出時	積立金に対する解約控除額(積立金に解約控除率10%~1%を乗じた金額)	一部引出日が契約日より起算して10年未満の場合には、 経過年数に応じて計算した金額を、 一部引出請求金額から控除します。

(*) 月単位の契約応当日から翌月の契約応当日の前日までに積立金移転を行った回数

経過年数については1年未満は切り上げとなります。

無償引出限度額(解約日または一部引出日の前日の積立金額の10%相当額)と同額の積立金額までは上記の積立金に対する解約控除額の計算対象となりません。

ただし、すでに積立金の一部引出が行なわれている場合はその合計額を無償引出限度額から差し引きます。

解約時の払戻し金の支払いに際しては、解約日の属する月に控除すべき危険保険料および保険契約関係費を払いもどし金額から差し引いてお支払いします。

基本年金額の減額、契約の型の変更、保険期間の短縮の際にも、危険保険金額の減額により、危険保険金額に対する解約控除が適用される場合があります。

将来、上記の内容が変更になることがあります。

運用関係の費用

項目	時期	費用	備考
運用関係費	毎日	ライフプロデュース30 年率0.7770%程度 (税抜年率0.74%程度)	投資信託の純資産額に対して、 毎日積立金から控除します。
		ライフプロデュース50 年率0.8295%程度 (税抜年率0.79%程度)	
		ライフプロデュース70 年率0.8820%程度 (税抜年率0.84%程度)	
		ライフプロデュース日本株式 年率0.8610%程度 (税抜年率0.82%程度)	
		ライフプロデュース世界株式 年率0.8925%程度 (税抜年率0.85%程度)	
		ライフプロデュース世界債券 年率0.5460%程度 (税抜年率0.52%程度)	

運用関係費は、主に利用する投資信託の信託報酬率を記載しています。

信託報酬の他、信託事務の諸費用等、有価証券の売買委託手数料及び消費税等の税金等の諸費用がかかりますが、

これらの諸費用は運用資産額や取引量等によって変動するため、費用の発生前に具体的な金額や計算方法を記載することが困難であり、表示することができません。

また、各特別勘定がその保有資産から負担するため、基準価額に反映することとなります。したがって、お客さまはこれらの諸費用を間接的に負担することとなります。

これらの運用関係費は、運用手法の変更・運用資産額の変動等の理由により、将来変更される可能性があります。

< 第1回の年金の支払事由発生以後にかかる費用 >

項目	時期	費用	備考
年金管理費	年単位の契約応当日	支払年金額の1%	年金支払開始日以後、 年単位の契約応当日に責任準備金から控除されます。

年金管理費は、将来変更となる可能性があります。

[引受保険会社]

アクサ生命保険株式会社

お問合せ先: カスタマーサービスセンター

Tel 0120-936-133

アクサ生命ホームページ <http://www.axa.co.jp/life/>